

汚染水の影響抑止に向けて

- ・ 汚染水コントロールの強化
- ・ 現場マネジメントの強化

平成25年9月19日
東京電力株式会社

汚染水コントロールの強化 海側遮水壁の設置促進

- 建屋の海側に遮水壁を設置し、護岸への地下水流出を抑制
- 現在2号機取水路付近まで設置完了(下図)。来年9月完成目途



汚染水コントロールの強化 陸側遮水壁（凍土方式）の実現

- 建屋の山側に遮水壁を設置し、建屋内への地下水流入による汚染水増加を抑制（今年度末迄にフィージビリティ・スタディを実施。2015年度上期の運用開始を目指す）[経済産業省補助事業]



汚染水コントロールの強化 高汚染水浄化の加速

- 高汚染水を早期に浄化（トリチウム以外の核種を除去した水に置換）していくために、以下を実施
 - 停止中の多核種除去設備（ALPS）を早期に稼働（9月末ホット試験開始）
 - 高性能ALPSの検討を今年度から実施〔経済産業省補助事業〕

<ALPSの性能比較>

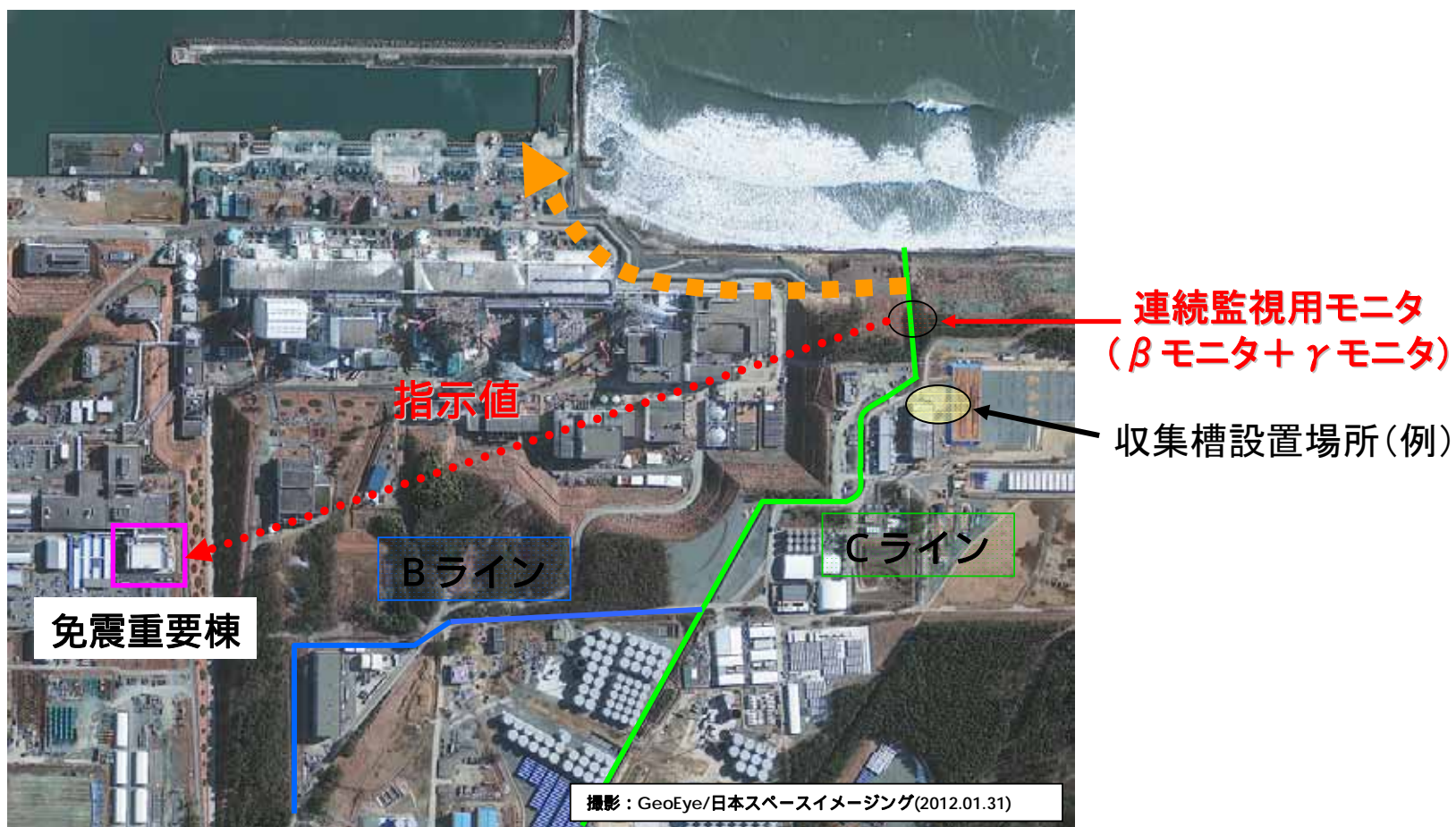
	設計流量	高汚染水約30万m ³ の 処理日数〔9月末時点 からの処理目標日数〕※
現行ALPS	500m ³ /日	約3,000日
現行ALPS+高性能ALPS	1,000m ³ /日	約900日 (約500日)



※汚染水は400m³/日と想定, ()内はALPSが稼働してからの処理目標日数

汚染水コントロールの強化 排水溝からの流出抑止

- 排水溝での放射線モニタによる連続監視(今年11月末より運用開始)
- 排水先を外洋から港湾内に切り替えられるルートを設置
- 高汚染水が漏えいした場合に備え、監視モニタ近傍に収集槽を配備



現場マネジメントの強化 タンクパトロールの要員増強

- パトロール要員を60名以上に増強。頻度も1日2回から4回に増加
- 「目視点検」、「線量測定」を組み合わせた包括的な確認を実施し、漏えいの兆候、漏えいの有無を把握、記録
- 今年11月末日途で水位計を設置し、遠隔・集中監視を開始



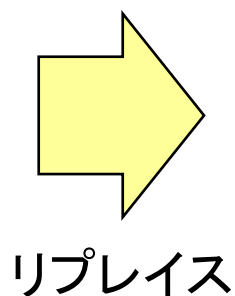
福島第一原子力発電所 H4タンクエリアパトロールの様子
(2013年9月12日撮影)

現場マネジメントの強化 溶接型タンクへのリプレイス加速

- 以下により溶接型タンクへのリプレイスを加速
 - タンク増設のため、複数エリアの同時設置や複数社の同時施工等を検討
 - 貯水中の汚染水の移動先となる溶接型タンクの増設も加速



フランジ型タンク



リプレイス



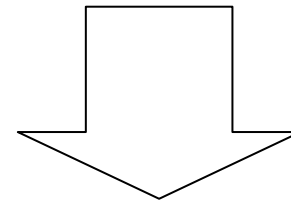
溶接型タンク

.現場マネジメントの強化 T M I 廃炉第一人者の招聘

- 汚染水・タンク対策本部の社外専門家として、国外から廃炉技術に精通した専門家であるレイク・バレット氏（元米国原子力規制委員会（NRC）、元米国エネルギー省（DOE））を招聘。指導・助言を仰ぐ



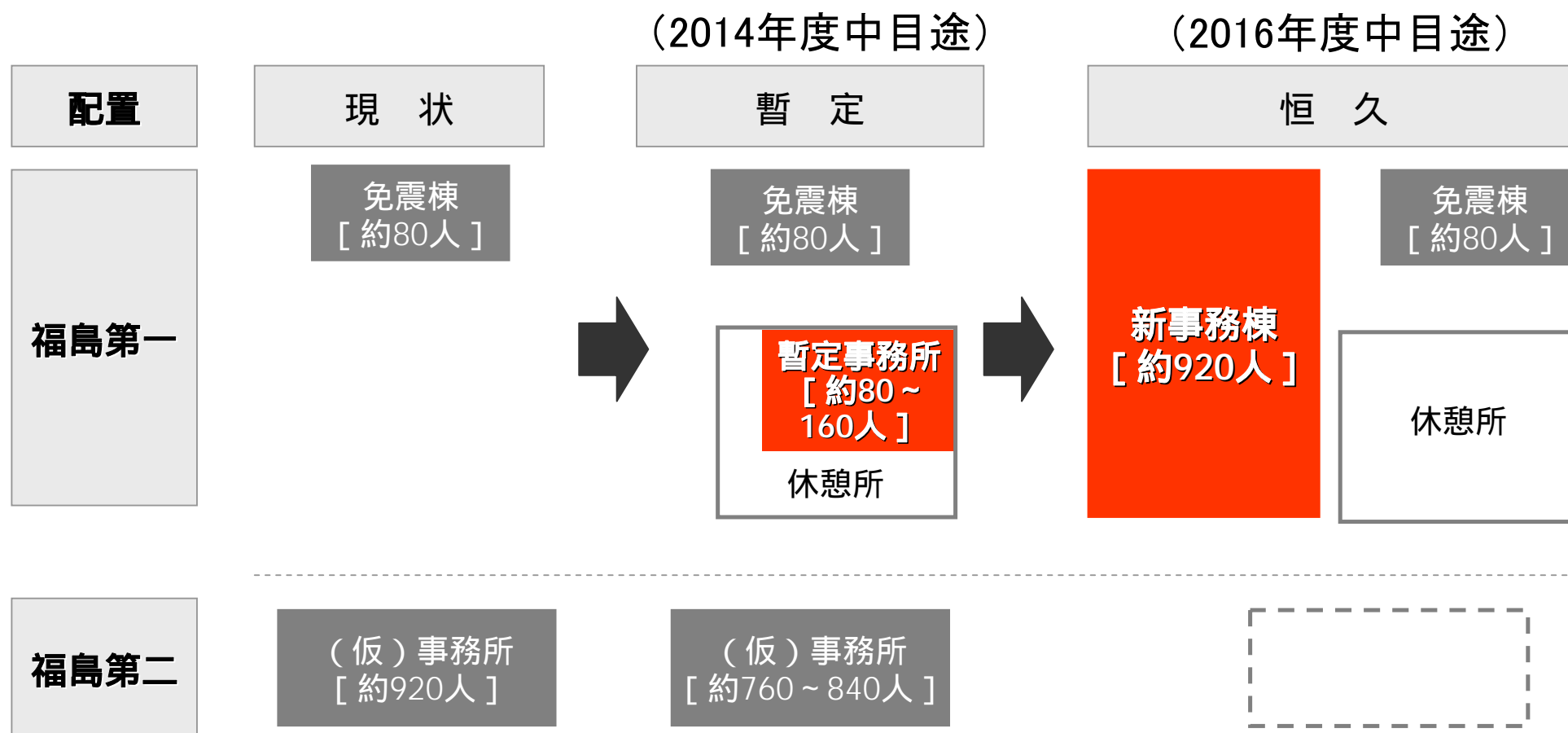
同氏は、米国原子力規制委員会において、スリーマイル島原子力発電所事故の収束に携わった国際的な知見・経験等を持つ。



今後、当社の対策本部や各プロジェクトチームの会議に参加し、汚染水対策を含む廃炉に関する指導・助言を行う。

現場マネジメントの強化 現場一体感の醸成（新事務棟の建設等）

- 関係者の情報共有、トラブル等への迅速な対応を可能とするため、新事務棟を福島第一原子力発電所に建設し、協力企業を含めた現場機能の一体化・集中化を推進



注)[]内の人数については今後変わる可能性有り